



## 北上市の民俗芸能の未来を考えよう

平成30年11月7日(水) 時 15時~16時

北上市立博物館 多目的室にて

### 《参加者》

- 北上市民俗芸能団体連合会  
会長 菅原 晃、副会長 田鎖 久一 高橋 稔 昆美知男  
事務局 藤田 勇夫
- 北上市長 高橋 敏彦  
まちづくり部長 阿部 裕子 教育部長 高橋 謙輔  
商工部参事 八重樫 信治 地域づくり課長 高橋 幸世  
商業観光課長 佐藤 江美 文化財課長 高橋 博  
事務局(司会) 政策企画課長 斎藤 昌彦

### 【北上市民俗芸能団体連合会】

市の民俗芸能を保存し、育成すること、民俗芸能を通じて地域文化の振興を図ることを目的に活動しています。主な事業は、「北上みちのく芸能まつり」への出演、「子どもみちのく芸能まつり」の開催など。



### 市長と話そうまち育て

#### タウンミーティングとは…

市内で活動している団体の皆さんが、日ごろの取組みや活動を通して気づいたことなどについて、市長と気軽に意見交換する場です。

### 【市長あいさつ】

平素、市内の民俗芸能を盛り上げていただき、皆様には心から感謝申し上げたい。タイトルにある「まち育て」とは、身近な地域資源に目を向けて、普段気にとめないものが地域の宝だということに気づき、大切に育てる環境を自分たちで整えていく市民活動である。タウンミーティングの目的は、貴重ではあるが、メディアで取り上げられにくい活動に焦点を当てることであり、地域課題を出していただくことで、我々が政策作りをするにあたり、参考にもさせていただいている。本日は、忌憚ないご意見をよろしく願います。

### 【北上市民俗芸能団体連合会会長あいさつ】

北上市内には100を超える芸能団体が存在するが、芸能の継承に関して取り巻く環境は年々厳しさを増している。北上市民俗芸能団体連合会(以下、民芸連)では、加盟団体約60団体が継承や団体存続に関する実態調査を行い、民俗芸能団体の育成に向けた取り組み方針をまとめた。今回のタウンミーティングでは、この課題を当団体だけではなく、市の問題として共有したい。市と民芸連がまちづくりのパートナーとして協力して解決に向けた話し合いをしたいと思っている。よろしく願います。

## 伝統芸能の保存に係る現状や思い



**藤田さん**：事務局長の藤田です。民芸連では、加盟している団体に対し、伝統芸能の保存と継承について実態アンケート調査を行い、その結果より取り組み方針を作った。今回の調査は、民芸連に加盟している団体のみが対象だ。市では今後、このような調査を全団体に対し行う予定はあるのか？アンケート結果をどのように受け止めているのか聞きたい。

**田鎖さん**：民芸連の副会長を務めている田鎖です。道地雛子剣舞保存会の

会長も務めている。当団体の活動は中学三年生が多く、入試との絡みを今から心配している。

**高橋さん**：下条和賀大乘神楽保存会会長の高橋稔です。私は、以前、民芸連の事務局長を務めていた。当時、市内の民俗芸能団体の発表の場として、教育委員会から北上市民俗芸能発表会開催業務委託事業を受託していた。当初、平成4年度の予算は、60万円ほどだったが、委託事業最終年の平成20年度には、37万5千円に減額していた。開催回数も、初めは1年に2回開催の体制がとれていたが、平成13年度に発表場所にして市民会館の取り壊しにより、特別に年1回の開催としたところ、それ以降、最終年まで年1回体制に変わってしまった。

平成21年度から昨年度にかけては、文化庁の補助事業を受け、冬のみちのく芸能まつりを開催している。この事業のおかげで、芸能団体の発表の場が確保できているが、出演団体

への報酬は補助事業の対象にならない。これが非常に大きな問題となっている。また、補助金は毎年申請し、採択される必要があり、来年以降の発表の場は担保されておらず、継続できるか分からない。民俗芸能の保存継承の立場から是非続けていく方策を見つきたい気持ちでいる。

**昆さん**：黒岩太神楽の代表をしている昆です。黒岩小学校を利用し、小学5年生に太鼓、6年生には踊りを教えている。冬期に練習し、出演要請があれば発表している。過疎化に伴い、現在6年生は4人しかおらず、一人欠けると目立つ。もう少し参加者がいれば、と思うが、地域にも人がいない。自分自身も継承されてから40年経つが、新人が入りづらい雰囲気がある。多い時で、80人近くの方が所属する。若い人達もいるが、後が続かないのが苦しい状況だ。

**市長**：藤田さんの団体の活動状況も伺いたい。

**藤田さん**：私が所属するのは御免町鬼剣舞で、比較的若い人たち中心に活動しているが、後継者の育成には悩まされている。若い人達は関心を示していない。地域づくりをしながら後継者の募集をかけるのだが、集まらないのが現状。今は地域を限定せずに募集をしている。

**菅原会長**：今まで9年、文化庁の「文化遺産総合活用推進事業」の補助金(以下、文化庁補助金)を使い、秋に子供の発表会を催したり、冬のみちのく芸能まつりを実施してきたが、事務量が非常に多い。今まで、一大イベントになるからと一手に引き受けてきたがとても大変だ。申請を文化財課には、手伝っていただいているが、その他にも各団体への出演依頼やさくらホールの舞台の準備など多くの作業があり、本当に骨が折れる。続けていくには、事務局体制を強化しないといけない。人材を集めないといけないし、経済的な負担が必要だ。他市では市職員が事務局を担っ

ている自治体もあると聞く。軌道に乗るまで支援してほしい。

**高橋さん**：事務局体制の強化に関連して、私も言いたい。私が民芸連の事務局を担っていた平成15年度に他市と共同で「岩手中部子どもたちの郷土芸能交流フェスタ」を北上市で開催したことがあった。その際、驚いたのは、他市は文化財課に民俗芸能団体の連合会の事務局をもつ自治体もあったことだ。やはり事務局はしかるべきところに設置すべきだと思う。

**菅原会長**：先ほども話したが、民芸連でアンケート調査をとり、このままではいけないという意識になった。そこで、3つの柱を体制強化、取り組み方針、振興条例と定め、活動方針を作成した。芸能団体の活性化を進めるためには、振興条例が必要と考える。また、実際に活動方針を進めるには、人材が必要であるし、体制を整えなければならない。この取り組み方針を進めていくパートナーとして、市役

所、北上観光コンベンション協会、北上商工会議所など多様な団体が、一丸となって、振興していきたい。

冬のみちのく芸能まつりに係る文化庁補助金については、民芸連の傘下の芸能団体への出演料が補助対象にならないので、それを使わず、新しい方式を我々も検討したいと思うが、現状で手いっぱい考える余地がない。文化庁補助金を使い続けるにしろ、自己資金にしろ、冬の芸能まつりをはじめとしたイベントの実行委員会が必要だという点から体制強化を考えている。

**藤田さん**：今年から正式に事務局の一員になったが、ポスターやプログラム作成など事務量の多さに驚いた。今回出演した団体以外にも多くの芸能団体があるので、出演の機会を与えてあげたいと思うが、その分より一層事務量が増えている。将来に向かって、事務局を何とかしていけないと大変だと心底思った。冬のみちのく芸能まつりは、夏のみちのく芸能まつりに次

ぐ規模に成長しつつある。成功させて次につなげる手立てをきちんとした推進体制の中で検討していきたい。

**昆さん：**私も事務局を10年務めていて、夏のみちのく芸能まつりへの民芸連の影響力が弱いと感じる。出演団体の中で、民芸連に加盟していない団体がどうして選出されているのか。所属団体を選んでほしいが、取り上げてもらえない。民芸連と市のつながりが薄いので、もっと強くしていきたい。

**菅原会長：**夏のみちのく芸能まつりにおいて運営委員会の幹事には入っているが、行事の運営には携わっていないので、出演団体について意見できない。実質的に事業を動かす実行委員会に民芸連が所属しないのは変だ。

**市長：**実行委員会に所属していないのか？

**昆さん：**会長だけ運営委員会に入っている。でも、実行委員会が行う出演団

市民活動情報センターを設置し、立ち上げの支援等を行っている。

他にも、芸術文化部門では、(一財)北上市文化創造(特非)芸術工房と協働しながら、芸術文化団体の支援をしている。農業では、花巻農業協同組合(以下、農協)が一番大きい中間支援組織であり、農協と市は協働しながら、農家・農業を支援している。また、最近作った支援組織は、産業支援センターで、これは、(株)北上オフィスプラザと協働で設置した中間支援の拠点である。農業支援センターは(一社)機械化農業公社と協働で設置した。

民俗芸能は地域の活力として地域教育力など多方面で盛り上げており、決して絶やしてはならない存在。中間支援組織は任意団体でも設置可能だ。市民活動情報センターと文化財課と連携しながら体制を整えていくの

体の議論には、入れてもらえない。

**菅原会長：**鬼剣舞の団体の中には、未加盟の団体に対し、不満を持つ人もいることを実行委員会から相談されている。相談されれば、配置の話をしていただが、計画から我々が入っていれば、未加入の団体が出演することなく、加入している団体が不愉快な思いをしなくて済む。

### 市長よりコメント

**市長：**事情は承知しました。私の方から少し、気づいたこととお話する。10年ほど前は市民活動や協働に関するルールが無いまま、市と市民団体との間で補助や委託など協働のかたちがとられていた。そのような中、第3セクター問題なども発生し、整理の必要



が最も近道である。動きやすい体制づくりを進めてほしい。伝統芸能団体全体のサポートを目的に中間支援組織を立ち上げてもらえれば。

**菅原会長：**事務局を市が持つ風潮になることは承知している。でも、相当の事務量があり、中間支援組織を立ち上げて私たちが維持していけるかどうか……。ちょっと無理だと思ってしまう。

**市長：**どうか諦めないでいただきたい。事業計画があれば市や関係機関からの委託や補助という形で事務局費用を確保する方法も考えられる。

**菅原会長：**なかなかそのようなアドバイスをこれまで聞く機会がなかった。まちづくりの観点からも一本化した窓口が

性が高まり、今から18年前に「市民活動を考える会」を立ち上げて、市と第3セクターあるいはNPOや市民団体との関係がどうあればいいかを、県や市と協働で研究した。その後、市長となって制定したのが、「北上市まちづくり関係条例」だ。

初めに策定したのが「自治基本条例」であり、これは市の全ての条例の最高位にある、市の憲法のような存在。この中で「協働」を、各主体が自主性を持つ対等な立場で協力し合うと定義しており、この考えが欠けると問題が生じる。また、その「協働」をどのように進めるのかを定めたのが「まちづくり協働推進条例」。これは各主体が協働できる権利と機会を保障している。協働の考えのもと、市が事務局を担っている団体については、今後整理していくが、全てを団体任せにすると大変になる。そこでサポート役として組織づくりや団体の困りごとの解決のお手伝いをする中間支援組織が必要となり、いわてNPOネットサポートが運営する

あってもよいのでは。

**市長：**市民活動情報センターが窓口を担っており、色々と教えてくれる。職員が常駐しているのでいつでも相談してほしい。

**政策企画課長：**それでは、時間も過ぎておりましたので、ここで終わりにさせていただきます。最後に市長から講評をお願いします。

**市長：**本日はありがとうございました。色々な事情をお聞かせいただき、本当にお困りな点があることは受け止めた。色んな知恵を働かせながら、事務局の確保、財源の確保、そういったことを一緒にやっていかなければいけないのだと感じている。まずは今ある仕組みの中で進めながら、中間支援のサポートを受けつつ進めていただきたい。よろしくをお願いします。

**北上市民俗芸能団体連合会の皆様！ありがとうございました！**